

IGS 日本支部 2023 年通常総会 議事録

1. 日 時： 2023 年 2 月 2 日（木）15：00～17：00 *特別講演含む
2. 開催方法：対面と Zoom オンラインのハイブリット形式
3. 会 場： 東京大学生産技術研究所（駒場リサーチキャンパス）
As 棟 3 階中セミナー室 4 （As311,312）
4. 議事資料：2023 年通常総会議題書
5. 議事内容
 - （1）開会宣言
 - ・ 平井幹事長より 2023 年通常総会の開会宣言がなされた。
 - ・ 現在の会員および総会の議決票数は、個人会員 200 名（各 1 票）、特別会員 18 社（各 5 票）で総会の総議決票数 290 票。今回の総会では、Zoom でのオンライン参加を含め、個人会員の 90%以上にあたる個人会員が出席（51 名）又は議長委任（128 名）、特別会員の 100%にあたる特別会員が出席（13 社）又は議長委任（5 社）で総票数 269。全会員票数 290 の 2 分の 1 を上回り、通常総会は成立した。
 - （2）議長選出及び議長挨拶
 - ・ 議長には桑野支部長が選出され、承認された。
 - （3）2022 年事業報告及び 2023 年事業計画【資料 1】
 - ・ 資料に基づき各委員会より 2022 年活動報告、2023 年活動計画についてそれぞれ説明がなされた。
 - （4）2022 年収支決算・2023 年予算(案)（財務委員会）【資料 2】
 - ・ 資料に基づき会計幹事より 2022 年決算報告、2023 年予算(案)について説明がなされ、承認された。
 - （5）2022 年監査報告【資料 3】
 - ・ 資料に基づき会計監事より 2022 年一般会計は適正かつ正確であることが報告された。
 - （6）2023 年役員の選出【資料 4】
 - ・ 資料に基づき 2023 年役員の再任・新任・退任について説明がなされ、承認された。
 - （7）閉会挨拶
 - ・ 桑野支部長の閉会挨拶により、2023 年通常総会は閉会した。
6. 特別講演
 - ・ 桑野支部長による「補強土壁の被災と補修」と題する特別講演が行われた。

以上

国際ジオシンセティックス学会日本支部
2023 年通常総会議題書

【 議 事 次 第 】

開会宣言

議長選出

議長挨拶

2022 年事業報告及び 2023 年事業計画 【資料1】

2022 年収支決算 ・ 2023 年予算(案) 【資料2】

2022 年監査報告 【資料3】

2023 年役員選出 【資料4】

閉会挨拶

2023 年 2 月 2 日(木)

ハイブリット形式開催

於 東京大学 生産技術研究所 ・ Zoom オンライン

国際ジオシンセティックス学会日本支部

2022年事業報告及び2023年事業計画

1. 2022年未会員数 * () 内は2021年未会員数

正会員	204名	(197名)
学生会員	7名	(10名)
特別会員	18社	(20社)

2. 日本支部の主な活動

1) IGS 本部理事会：

3-1) 2022年は、理事の半数改選選挙が行われ、勝見理事に替わって久保理事が選出された。

3-2) 理事会（勝見理事、宮田理事、久保理事）：新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンラインで3回実施（2022年4月、9月、12月）

2) IGS 本部対応（会員名簿の提出、会費納入など）

IGS 本部が学会ロゴを改訂したのに伴い、日本支部のロゴも改訂した。

3) 2022年12月1-2日 第37回ジオシンセティックスシンポジウム

（ソニックシティ(埼玉県さいたま市)および Zoom meeting オンラインのハイブリット開催)

3. 刊行物の発行事業

1. 国際ジオシンセティックス学会日本支部会員名簿
2. ジオシンセティックス技術情報（3月、7月、11月）
3. ジオシンセティックス論文集第37巻（J-Stage で公開）

2023年についても、2022年と同様の国際対応を含む事務局業務を行う

- 1) 本部対応（会員名簿の提出、会費納入など）
- 2) IGS 本部理事会は、日程は未定だが、オンラインで実施となる可能性がある

以上

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2022年 活動報告

(1) 2022年編集委員会活動報告内容

- 1) 第1回編集委員会（日時：令和4年3月25日(金)，場所：ユニチカ東京本社会議室／Zoom 併用開催）
 - ・'22 編集体制の確認・検討・決定
 - ・'22.3月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
 - ・'22.7月号の特集「防災技術に使われる水辺のジオシンセティックス」に関する検討
- 2) 第2回編集委員会（日時：令和4年5月27日(金)，場所：三井化学産資 8F 会議室／Zoom 併用開催）
 - ・'22 編集体制の役割分担の確認
 - ・'22.3月号の印刷・送付状況の確認，および次号送り原稿の確認
 - ・'22.7月号の特集「防災技術に使われる水辺のジオシンセティックス」に関する検討
 - ・'22.11月号の目次案および編集工程の検討
 - ・2022年技術賞，技術奨励賞の候補論文の選考方法に関する検討
- 3) 第3回編集委員会（日時：令和4年7月29日(水)，場所：三井化学産資 8F 会議室／Zoom 併用開催）
 - ・ジオシンセティックス使用量アンケートの発送完了・回答返送状況の報告
 - ・'22 編集体制の役割分担の確認
 - ・'22.7月号の未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
 - ・'22.11月号の目次案および編集工程の検討
 - ・技術賞推薦候補，技術奨励賞推薦候補の技術報文の検討，次回委員会での選考確認
- 4) 第4回編集委員会（日時：令和4年9月9日(金)，場所：日大駿河台 10号館 1052 会議室／Zoom 併用開催）
 - ・ジオシンセティックス使用量アンケートの回答返送状況の報告
 - ・技術賞推薦候補，技術奨励賞推薦候補の技術報文について，各委員による事前選定結果に基づいて選考
 - ・'22 編集体制の役割分担の確認
 - ・'22.7月号のすべての原稿の入稿確認，および印刷・発送工程の確認
 - ・'21.11月号及び'23.3月号の目次案および編集工程の検討
 - ・'23.7月号の特集号テーマと展望執筆者の検討
 - ・ジオシンセティックス使用量アンケート調査について
- 5) 第5回編集委員会（日時：令和4年12月23日(金)，場所：三井化学産資 8F 会議室+Zoom 併用開催）
 - ・'23 編集体制の確認，'24，'25の主査・副査担当者の検討，および役割分担の確認
 - ・'22.11月号の発送工程の確認，次号送り原稿の確認
 - ・'23.3月号の目次案および編集工程の検討
 - ・'23.7月号の特集号テーマと展望執筆者の検討
 - ・支部総会資料の検討

(2) 2022年委員会設営費報告

内 訳	予算 (円)	実績 (円)	備 考
① 委員会経費 ・編集委員会	200,000	68,080 62,680 57,280 7,960 4,000	第1回編集委員会交通費 第2回編集委員会交通費 第3回編集委員会交通費 第4回編集委員会交通費 第5回編集委員会交通費
合 計	200,000	200,000	

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2023年 活動計画

(1) 2023年活動予定内容

<全体の活動内容>

定期発刊を心掛けるとともに、「技術報文」の投稿については、編集委員による情報収集のほか、情報提供して頂ける会員をオブザーバーという形で委員会にご参加して頂くとともに、シンポジウム掲載論文や他学協会の年次講演会を範疇に入れ、JC-JGS 技術賞候補論文および JC-JGS 技術奨励賞論文の対象に成り得るような質の高い「技術報文」の掘り起こしを積極的に行う予定である。

毎年、特集号として位置付けられる7月号については、最近のジオシンセティックス技術の動向を探る観点から、また、新たな展開を期待する意味合いから、「発泡ジオシンセティックス」をテーマとして技術報文を募集する予定である。さらに、11月号では、2023年9月にローマで開催予定の国際ジオシンセティックス会議に関する特集を予定している。

一方、我が国におけるジオシンセティックス関連の規格・基準の整備の必要性が認識されつつあることから、ISO や ASTM で審議中の規格案に関する「審議情報」を積極的に掲載していくとともに、これまで同様、「修士、博士論文概要の紹介」などの掲載を引き続き行う。

昨年から計画している「ジオシンセティックス使用量に関するアンケート調査」の取りまとめを行い、報告書の作成および技術情報に調査結果を公表する予定である。

<具体的な活動内容>

1. ジオシンセティックス技術情報の発行

ジオシンセティックス技術情報は、従来通り年3回の発行とする。

(2023年3月号、2023年7月号、2023年11月号)

2. 編集委員会

編集委員会においては、ジオシンセティックス技術情報を滞り無く発行するための定例業務として、目次案の検討や原稿執筆状況の確認などを行うとともに、編集に際しての問題点の解決を行う。また、継続的な審議事項として、編集方針や内容分類の整理、テーマ特集号の設定、新企画の検討など、読者のニーズに合うように check and review を積極的に行う。なお、5月および7月の編集委員会では、2023年技術賞、技術奨励賞の受賞候補となる技術報文の推薦選考を行う予定である。

開催予定：5回程度（3月、5月、7月、9月、12月を予定）

3. 主査・副査担当者

主査・副査担当においては、編集委員会で決定した編集方針に基づくジオシンセティックス技術情報の実質的な編集作業として、原稿の内容確認などを行う。なお、今年の主査・副査担当者は以下に示す通りである。また、編集作業は、基本的にはメールで作業を行う。

23年3月号：主査 高橋委員， 副査：小浪委員，竹本委員長

7月号：主査 山中委員， 副査：西村委員，内村委員

11月号：主査 木幡委員長，副査：藤城委員，山中委員（ローマ会議特集号、2023年9月開催）

(2) 2023年設営費計画

委員会設営費は、これまで委員会の開催回数を3回として計上していたが、ここ数年、開催回数を5回としているため、例年より10万円増額した交通費として、以下の予算案としたい。

内 訳	予算案 (円)	備 考
① 委員会経費 ・編集委員会	300,000	委員会交通費 (55,000×5回+5,000×5回)
合 計	300,000	

行事委員会 2022 年活動報告

(1) 2022 年活動報告

第 37 回ジオシンセティックスシンポジウムを、2022 年 12 月 1 日～2 日にハイブリッド型式で開催した。対面式についてはソニックシティ 403 会議室(最大 60 名、事前予約制)で実施、オンライン型式は Zoom meeting を用いた。

[第 37 回ジオシンセティックスシンポジウム・開催概要]

主 催：国際ジオシンセティックス学会日本支部

発表件数：17 編(研究開発論文 16 編、報告 1 編)

参加者：88 名(申込み者数)、対面参加(12/1：29 名、12/2：41 名)

◆一般セッション：4

◆特別セッション：2

・製品・工法紹介セッション(行事委員会とコーポレートメンバー委員会の共同企画)

・事例紹介セッション：「発泡ジオシンセティクス」(5 事例)

◆JC-IGS 論文賞・奨励賞・技術賞・技術奨励賞表彰式 [詳しくは表彰委員会を参照]

(2) 2022 年委員会設営費報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
交通費ほか	50,000	640	交通費
通信費・消耗品費等	30,000	0	
論文集編集アルバイト代	20,000	17,000	
合 計	100,000	17,640	

(3) シンポジウム収支報告

第 37 回ジオシンセティックスシンポジウム収入					
2022 年 12 月 1 日・2 日					
《シンポジウム》	参加者	収入額	《懇親会》	参加者	収入額
正会員	36	¥144,000	参加者	0	¥0
非会員	15	¥90,000	受賞者	0	¥0
招待	13	¥0	招待	0	¥0
優待	12	¥48,000	学 生	0	¥0
学 生	7	¥7,000	講 演 者	0	¥0
事例紹介セッション	5	¥0	小 計	0	¥0
講演者	0	¥0			
小 計	88	¥289,000			
《請求書払い》	件 数	収入額	《論文集販売》	件 数	収入額
正会員		¥0	正会員		¥0
非会員		¥0	非会員		¥0
学 生		¥0	小 計	0	¥0
小 計	0	¥0			
シンポジウム計	88	¥289,000			
			総収入		¥289,000

支 出 内 訳	予 算	実 績	備 考
会場費・設営費	0	53,100	ソニックシティ(埼玉県さいたま市)
EM 管理費・システム利用料	260,000	220,000	
論文集印刷費	100,000	29,920	デジタル版のみ
特別講演謝礼	100,000	0	
通信費・事務局旅費ほか	90,000	6,491	WiFi ルーターレンタル
懇親会費	0	0	新型コロナウイルス感染症対応のため実施せず
合 計	550,000	309,511	

行事委員会 2023 年活動計画

(1) 2023 年活動予定内容

第 38 回ジオシンセティックスシンポジウムは、2023 年 11 月 30 日～1 日(仮)、ハイブリッド型式での開催を計画している。2022 年より投稿システム (EM) の本格運用を開始し、論文募集～編集は随時行う。

- 2 月 会場・日時の決定、技術情報誌・会員向け e-mail・HP での会告掲載
- 7 月 会員向け e-mail や HP 等で論文集第 38 巻への登載期限についての通知を行う
- 9 月上旬 第 1 回行事委員会、シンポジウムの形態について判断する
- 10 月下旬 第 38 巻の登載論文の確定～シンポジウムでのセッションプログラムの策定
- 11 月上旬 著者・会員へのシンポジウム概要の通知
- 11 月 30 日～1 日(仮) 第 38 回ジオシンセティックスシンポジウム
一般発表、特別講演、事例紹介セッション、製品・工法紹介、JC-IGS 論文賞・奨励賞・技術賞・技術奨励賞表彰式

(2) 2023 年設営費計画

内 訳	予 算	備 考
委員会交通費・事務局旅費ほか	50,000	
通信費・消耗品費等	30,000	
論文集編集アルバイト代	20,000	
合 計	100,000	

(3) 第 38 回ジオシンセティックスシンポジウム開催費 (ハイブリッド開催)

収 入 内 訳	予 算	備 考
論文登載料	250,000	
シンポジウム参加費	300,000	
懇親会参加費	0	
合 計	550,000	

支 出 内 訳	予 算	備 考
会場費・設営費	100,000	
EM 管理費・システム利用料	280,000	(ロゴ変更費含む)
論文集印刷費	50,000	デジタル版のみ
特別講演謝礼	80,000	
通信費・事務局旅費ほか	40,000	
懇親会費	0	
合 計	550,000	

2023 年 行事委員会・論文集編集委員会 名簿：

- 委 員 長：中村 努 (苫小牧高等工業専門学校)
- 幹 事：峯岸 邦夫 (日本大学)
- 幹 事：小島 謙一 (公益財団法人鉄道総合技術研究所)
- 委 員：明永 卓也 (三菱ケミカルインフテック株式会社)
- 委 員：荒木 裕行 (香川大学)
- 委 員：石藏 良平 (九州大学)
- 委 員：河村 隆 (信州大学)
- 委 員：竜田 尚希 (富山大学)
- 委 員：辻 慎一郎 (前田工織株式会社)
- 委 員：平川 大貴 (中央大学)
- オブザーバー：内村 太郎 (埼玉大学)

以上

学生・教育委員会 2022 年活動報告

(1) 2022 年活動報告内容

1) 委員会開催内容

入門セミナー・見学会の開催企画の検討（委員会開催なし）

2) 行事開催

入門セミナー

開催なし

見学会

開催なし

(2) 2022 年委員会設営費報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
委員会設営費【支出】			
入門セミナー経費	50,000	0	
見学会経費	50,000	0	
合計	100,000	0	

学生・教育委員会 2023 年活動計画

(1) 2023 年活動予定内容

1) 委員会開催

入門セミナー・見学会等の企画および技術資料の提供等に関して年 2 回程度のオンラインでの委員会を開催予定。

2) 行事開催

ジオシンセティックス入門セミナー

現場見学会

(2) 2023 年設営費計画

内 訳	予 算
委員会設営費	
見学会経費	50,000
入門セミナー経費	50,000
合計	100,000

表彰委員会 2022 年活動報告

(1) 2022 年表彰委員会活動報告内容

・ 2022 年 IGS 日本支部賞の選考

2022 年 IGS 日本支部賞は下記の各賞について表彰規定により、表彰委員会にて選考した。

2022 年 12 月 1 日のシンポジウム開催時に表彰を行った。以下に表彰者を示す。

①JC-IGS 論文賞 (ジオシンセティックスに関する学術および技術の進展に顕著な貢献をした論文の著者)

木下遥介, Yu ZHANG, 加藤智大, LINCOLN WAWERU GATHUKA, 高井敦史, 勝見武

「鉛直荷重を受けたシート状吸着材のヒ素吸着性能評価」

②JC-IGS 論文奨励賞 (ジオシンセティックスに関する研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者)

宮本慎太郎

「ジオグリッドの土中促進クリーブ試験に関する基礎的検討」

③JC-IGS 技術賞 (ジオシンセティックスに関する技術の進展に顕著な貢献をした、個人・グループ)

原靖, 木幡行宏, 林啓二, 島崎将司

「中詰材(碎石・砂利)の巻き込みジオグリッドによるボックスカルバート基礎地盤の補強対策工法」

④JC-IGS 技術奨励賞 (ジオシンセティックスに関する技術的研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者)

三上大道, 吉田輝

「ジオテキスタイルで補強したセメント安定処理土による道路段差対策工法」

・ IGS Student Awards

2022 年台湾台北市で行われた第 7 回アジア地域会議 (GeoAsia7) において、伊藤友哉氏 (日本大学大学院理工学研究科、現在：岡三リビック (株)) が IGS Student Awards を受賞され、2022 年 12 月 1 日のシンポジウム開催時に賞状の授与を行った。

著者：Tomoya ITO, Kunio MINEGISHI and Kohichi YAMANAKA

論文名：An experimental and numerical analytic study on thickness reduction effect of geocell-reinforced base course

(2) 2022 年表彰委員会設営費報告

賞状代	784
盾代	63,800
計	64,584 円

表彰委員会 2023 年活動計画

(1) 2023 年表彰委員会活動予定内容

- ・ 2023 年 IGS 日本支部賞の選考、報告など
- ・ IGS 賞本部賞の選考など

(2) 2023 年表彰委員会予算案

盾、賞状作成費として 150,000 円

以上

電子情報化委員会 2022 年活動報告

(1) 2022 年活動報告内容

<主な活動内容>

1. HP の更新 (ニュース, データベース, ロゴなど)
2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化, 公開
3. HP リニューアルに関する検討

1. HP の更新について

- ・IGS 本部, 日本支部からの行事や情報について HP を中心に発信 (随時)

○URL <http://www.jcigs.org/>

- ・IGS 本部からの指示により日本支部 HP のロゴを変更, トップページデザインも一部変更 (2022 年 12 月)

2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化

論文集: J-Stage においてジオシンセティクス論文集を公開

- ・論文集 Vol.37 の J-Stage への登録, 公開 (2022 年 12 月 (シンポジウム後), 2023 年 11 月末までパスワード管理)
- ・論文集 Vol.36 の無料公開 (2022 年 11 月末)
- ・J-Stage 事務局との対応・調整

技術情報誌:

- ・目次掲載: 2022 年 7 月号まで
- ・本文 PDF 掲載: 2021 年 11 月号まで

3. HP リニューアルに関する検討

- ・委員会 (オンライン) を 2 回開催 (2022/5/13, 10/12)
- ・幹事会メンバーに資料をメール配信 (12 月)

(2) 2022 年委員会設営費報告

予算: 100,000 円

(内訳)

・HP メンテナンス作業	50,000 円
<支出合計>	50,000 円
<残 金>	50,000 円

(※) 論文集電子化作業 17,000 円 (行事委員会から支出)

電子情報化委員会 2023 年活動計画

(1) 2023 年活動予定内容

<主な活動内容>

1. HP の更新 (ニュース, データベースなど)
2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化, 公開
3. HP リニューアルに関する検討

1. HP の更新について

- ・ IGS 本部、日本支部からの行事や情報について HP を中心に発信
- URL <http://www.jcigs.org/>

2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化

論文集 : J-Stage においてジオシンセティクス論文集を公開

- ・ 論文集 Vol.38 の J-Stage への登録, 公開 (2023 年 12 月)
- ・ J-Stage 事務局との対応・調整

技術情報誌 :

- ・ 目次掲載 : 2023 年 11 月号まで
- ・ 本文 PDF 掲載 : 2022 年 11 月号まで

3. HP リニューアルに関する検討

課題

- ・ 20 年程前に新規に立ち上げたままで、特に変更しておらず、最近のウェブページと比較して古めかしい。
- ・ 当時主流だった「フレームレイアウト」という形式を使用しており、トップページから内部コンテンツへ移動しても移動先の URL が表示されない。たとえば、論文集原稿のテンプレートなど特定のページを他者に教える場合、どの URL を伝えて良いか分からない。

検討内容

- ・ 2025 年中に新 HP 運用開始を目標として、今後の検討を進める。
- ・ コンテンツ (追加, 統合, 廃止, 整理など) の検討
- ・ 業者選定, 見積もり依頼 (委員が HP 作成に関与した数社を中心に、現 HP をそのまま現在主流のフォーマットに移行した場合の見積もりを依頼)
- ・ トップページデザイン案, サイト構造の検討
- ・ 保守契約に関する検討
- ・ その他

(2) 2023 年委員会設営費計画

予算 : 200,000 円

(内訳)

・ HP メンテナンス作業	50,000 円
・ 論文集電子化作業	30,000 円
・ HP リニューアルに関する検討	100,000 円
・ その他 (事務手数料他)	20,000 円
<支出合計>	200,000 円

2023 年度 電子情報化委員会組織体制 (案)

河村委員長, 内村委員, 林委員, 久保委員, 小島委員, 宮本委員

ジオメンブレン技術委員会（第XIステージ）2022年活動報告

（1）ジオメンブレン技術委員会 2022年活動報告

2022年は2018年後半よりスタートした第XIステージ「遮水材料の超長期耐久性」について活動を実施した。

活動内容としては、供 用中の最終処分場より廃棄物に埋没していた遮水材料のサンプリング調査を実施し、2009年にジオメンブレン技術委員会より発刊した「廃棄物処分場における遮水シートの耐久性評価ハンドブック」を改訂することを主な内容とし、超長期耐久性予測のモデル式の検討や各種暴露状態における遮水シートの劣化速度変化等について検討を実施した。

（2）2022年委員会設営費報告

委員会開催

2022年 委員会設営費報告（自2022年1月1日～至2022年12月31日）

科目	予算	決算	備考
委員交通費	¥300,000 -	¥359,760 -	委員会5回開催 (他小委員会8回)
通信・消耗品費等	¥100,000 -	¥27,280 -	
未執行		¥12,960 -	
合計	¥400,000 -	¥400,000 -	

ジオメンブレン技術委員会（第XIステージ）2023年活動計画

（1）2023年活動予定内容

第XIステージのテーマ「遮水材料の超長期耐久性」を2023年も継続実施し、「廃棄物処分場における遮水シートの耐久性評価ハンドブック」の改訂版を発刊する。また、次年度以降の研究テーマについて検討を行う。

委員会組織（予定）

委員長： 島岡 隆行（九州大学大学院 工学研究院）

副委員長： 勝見 武（京都大学大学院 地球環境学堂）

副委員長： 熊谷 浩二（八戸工業大学 名誉教授）

※ 委員については公募を行い、随時見直しを行う。

（2）2023年設営費計画

2023年 委員会予算（自2023年1月1日～至2023年12月31日）

科目	予算	備考
委員交通費	¥400,000 -	委員会7回開催
通信・消耗品費等	¥100,000 -	郵便、通信、封筒、マニュアル印刷費等
合計	¥500,000 -	

ジオテキスタイル技術委員会（第Ⅷステージ） 2022年活動報告

（1）ジオテキスタイル技術委員会 2022年活動報告

2022年は、新ステージの活動テーマの検討のみ行った。

（2）2022年委員会設営費報告（自2022年1月1日～至2022年12月31日）

科目	予算	決算	備考
委員交通費	¥130,000-	¥0-	
通信・消耗品費	¥10,000-	¥0-	
合計	¥140,000-	¥0-	

ジオテキスタイル技術委員会（第Ⅷステージ） 2023年活動計画

（1）2023年活動予定内容

ジオテキスタイル技術委員会第Ⅷステージでは、活動テーマを決定し、委員を募集して、委員会を2回開催する。

（2）2023年設営費計画

科目	予算	備考
委員交通費	¥60,000-	委員会3回開催：¥20,000(1回)×3回= ¥60,000
謝金	¥60,000-	講演謝金 ¥20,000(1回)×3回= ¥60,000
通信・消耗品費	¥20,000-	郵便、通信、資料コピー
合計	¥140,000-	

コーポレートメンバー委員会 2022年活動報告

(1) 2022年活動報告内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載した。
 - ・3月号 大嘉産業株式会社
 - ・7月号 東京インキ株式会社
 - ・11月号 日本スパンボンド土木会（東洋紡株式会社）
- 委員会活動の報告
 - 第1回 1月26日 東京インキ社会議室での対面とオンラインで開催 14社出席
 - ・IGS 本部理事選挙への取り組み
 - ・ジオシンセティックス使用量アンケート調査の件
 - ・IGS/Foundation の基金について情報交換
 - 第2回 6月7日 東京インキ社会議室での対面とオンラインで開催 15社出席
 - ・IGS 本部理事選挙へ参加・投票のお願い
 - ・IGS/Foundation のWEB サイト掲載内容の確認と情報交換
 - ・ジオシンセティックス使用量アンケート調査実施の件
 - ・その他 JIS 規格「L」から「A」への変更の動きほか
 - 第3回 11月21日 東京インキ社会議室での対面とオンラインで開催 13社出席
 - ・IGS 本部理事選挙・本部理事会の件：久保新理事
 - ・IGS 日本支部予算の有効な用途展開について意見交換
 - ・ジオシンセティックスシンポジウムでの会社・工法紹介
 - ・ジオシンセティックス使用量アンケート調査実施中／返信のお願い
 - ・その他 IGS 本部・日本支部のロゴマーク変更の件
- ジオシンセティックスシンポジウムでコーポレートメンバーの工法／材料紹介の実施
※行事委員会と協調

(2) 2022年委員会設営費報告

委員会設営費 : 支出 11,000 円
 収入 11,000 円
 残金 0 円 (支出金額を報告、同額を振込み)

【内訳】

- ・1月26日(水) 第1回委員会
対面形式とオンライン形式のハイブリッド開催：出席会社 14社 ※2名分の交通費として使用
- ・6月7日(火) 第2回委員会
対面形式とオンライン形式のハイブリッド開催：出席会社 15社 ※5名分の交通費として使用
- ・11月21日(月) 第3回委員会
対面形式とオンライン形式のハイブリッド開催：出席会社 13社 ※4名分の交通費として使用

コーポレートメンバー委員会 2023年活動計画

(1) 2023年活動予定内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載する。
- ジオシンセティックス使用量アンケート調査への協力
- コーポレートメンバー会議の開催
- 各委員会からの連絡事項への協力と協調
- その他／会社単位での入会勧誘活動を行う。

(2) 2023年委員会設営費計画

委員会設営費 : 収入 50,000 円
 ※) 交通費・会議費等で使用予定

新技術委員会 2022 年活動報告

(1) 2022 年活動報告内容

新技術委員会では 2022 年の活動として、

- ① ジオシンセティックスの新技術情報の調査・研究や新技術委員会の活性化を目的とした現場見学・工場見学の開催
- ② 新技術関連の講演会の開催を計画した。

①については、開催することができなかった。

②については、開催することができなかった。

(2) 2022 年委員会設営費報告

2022 年の設営費報告を以下に示す。

収入	支出	残額	支出項目	備考
100,000	0			
		100,000		

新技術委員会 2023 年活動計画

(1) 2023 年活動予定内容

新技術委員会では、コロナ禍において 2022 年は十分に活動ができなかった分、積極的に活動を行う予定。活動内容としては、

- ① ジオシンセティックスの新技術情報の調査・研究や新技術委員会の活性化を目的とした現場見学・工場見学等の開催
- ② 新技術関連の講演会（新技術発掘のための話題提供等）の開催

(2) 2023 年委員会設営費計画

2023 年の設営費計画を以下に示す。

交通費	会議費	講演会費	計	備考
30,000	20,000	50,000	100,000	

以上

ジオシンセティック試験法委員会 2022 年活動報告

(1) 試験法委員会の活動概要

- ・地盤工学会基準部に設置されている室内試験規格・基準検討委員会内の WG6（ジオシンセティック）と連携して作業を進めている。
- ・「JIS L 1908 ジオテキスタイル試験方法」を廃止し、A 分類で新規制定するための準備を行った。具体的には、コーポレートメンバー委員会の委員との意見交換、及び、地盤工学会、規格協会と廃止・新規制定に係る作業準備について検討した。

(2) 2022 年委員会設営費報告

2022 年は、経費節減のため、メール審議を中心に活動したことから、委員会設営費を使用せずに活動した。

内 訳	予算 (円)	実績 (円)	備 考
① 委員会経費 ・試験法委員会	200,000	0	
合 計	200,000	0	残 200,000 円

ジオシンセティック試験法委員会 2023 年活動計画

(1) 活動計画

- 1)地盤工学会/WG6（ジオシンセティック）と連携して、「JIS L 1908 ジオテキスタイル試験方法」の改訂に向けての素案作成作業を行うとともに、コーポレートメンバー委員会との意見交換を継続して行う予定である。
- 2) ISO で制定されている国際規格を参照しながら、今後、我が国において必要なジオシンセティック基準を検討するとともに、関連協会等及び国内メーカーと意見交換しながら、基準化すべき試験法を抽出する。
- 3)国内のジオシンセティック試験法に対する要望を収集するために、継続的に、IGS 日本支部コーポレートメンバー委員会との意見交換会を実施する予定である。

(2) 2023 年設営費計画

委員会を 2 回開催する予定であることから、以下の予算案としたい。

内 訳	2023 年予算案 (円)	備 考
① 委員会経費 ・試験法委員会	200,000	委員会交通費 (100,000×2 回) 熊本あるいは苫小牧-東京(2 回程度)
合 計	200,000	

IGS日本支部 2022年会計決算

期間：2022年1月1日～2022年12月31日

資料2-1

< 収入の部 >

科 目	2022年 予算	2022年 実績	備 考
1. 会費等収入			
①2022年分			
個人会員	1,576,000	1,518,000	190名 × 8,000円 (過払い預り金▲2,000-)
学生会員	10,000	10,000	10名 × 1,000円
法人会員	4,560,000	4,320,000	18社 × 240,000円
先払分	0	65,000	2023年以降分 (個人・学生年会費)
②本部還付金			
法人会員分	114,000	122,958	19社 × 50\$ (129.43円/\$)
(小計)	6,260,000	6,035,958	
2. 講習会・出版物販売収入			
シンポジウム	550,000	289,000	参加費
書籍・ビデオ等販売	3,000	0	論文集・技術情報
(小計)	553,000	289,000	
3. 広告等収入			
技術情報誌広告	528,000	528,000	3月号・7月号・11月号
(小計)	528,000	528,000	
4. 受取利息			
受取利息	100	128	
(小計)	100	128	
収入合計	7,341,100	6,853,086	
5. 繰越金			
繰越金	23,749,077	23,749,077	前期繰越金
総 合 計	31,090,177	30,602,163	

〈 支出の部 〉

科 目	2022年 予算	2022年 実績	備 考
1. 本部国際学会費			担当：事務局
個人会員	709,200	749,399	193名 × 30 \$ (129.43円/\$)
法人会員	2,316,000	2,394,455	18社×1,000 \$ + 1社×500 \$ (129.43円/\$)
(小計)	3,025,200	3,143,854	
2. 出版費・講習会等補助費			
シンポジウム	550,000	89,511	担当：行事委員会
＜論文集関連費用＞			＜アトラス社Editorial Manager＞
★EMシステムサポート料		132,000	12ヶ月 (2022年4月～2023年3月分)
★EMシステム使用料		88,000	4,400円/編 × 20編
技術情報(3・7・11月号)	1,150,000	858,935	担当：編集委員会
会員名簿	150,000	126,170	担当：事務局
講習会・見学会補助費	100,000	0	
(小計)	1,950,000	1,294,616	
3. 委員会経費			担当：各委員会
国際連絡委員会	1,500,000	0	本部理事会Web開催
編集委員会	200,000	200,000	技術情報発行費別
行事委員会	100,000	17,640	論文集電子化作業費含む
学生・教育委員会	100,000	0	
表彰委員会	150,000	64,584	盾・賞状作製費
電子情報化委員会	100,000	50,000	HPメンテナンス, 技術情報誌電子公開作業費
ジオメンブレン技術委員会	400,000	387,040	
ジオテキスタイル技術委員会	140,000	0	
コーポレートメンバー委員会	50,000	11,000	
技術委員会	300,000	0	
新技術委員会	100,000	0	
ジオシンセティックス試験法委員会	200,000	0	
(小計)	3,340,000	730,264	
4. 事務局経費・その他			担当：事務局
総会	50,000	0	会場費, 懇親会費, 荷物発送費等
地盤工学会 (特別会員2級)	200,000	160,000	年会費, 会議室使用料, コピー代他
レンタルサーバー代	200,000	188,571	HP・メールリングリスト用・Zoomライセンス
通信費	150,000	111,493	郵便物発送費
消耗品費	75,000	243,343	事務消耗品(PC及びソフト更新含む)
備人費	500,000	600,000	事務局備人費
幹事会	40,000	0	会議費
手数料	30,000	21,677	年会費払込手数料, 銀行各種手数料
その他	150,000	34,121	慶弔費等, 謝金, 事務局交通費他
(小計)	1,395,000	1,359,205	
支出合計	9,710,200	6,527,939	
5. 繰越金			
繰越金	21,379,977	24,074,224	次期繰越金
総 合 計	31,090,177	30,602,163	

IGS日本支部 2023年会計予算

期間：2023年1月1日～2023年12月31日

資料2-3

< 収入の部 >

科 目	2023年 予算	備 考
1. 会費等収入		
①2023年分		
個人会員	1,632,000	204名 × 8,000円
学生会員	7,000	7名 × 1,000円
法人会員	4,320,000	18社 × 240,000円
②本部還付金	126,000	18社 × 50 \$ (140.00円/\$)
(小計)	6,085,000	
2. 講習会・出版物販売収入		
シンポジウム	550,000	論文登載料・参加費
書籍・ビデオ等販売	6,000	
(小計)	556,000	
3. 広告等収入		
技術情報誌広告	528,000	3月号・7月号・11月号
(小計)	528,000	
4. 受取利息		
受取利息	100	
(小計)	100	
収入合計	7,169,100	
5. 繰越金		
繰越金	24,074,224	前期繰越金
総 合 計	31,243,324	

＜ 支出の部 ＞

科 目	2023年 予算	備 考
1. 本部国際学会費		担当:事務局
個人会員	861,000	205名 × 30\$ (140.00円/\$)
法人会員	2,520,000	18社 × 1,000\$ (140.00円/\$)
(小計)	3,381,000	
2. 出版費・講習会等補助費		
シンポジウム	550,000	担当: 行事委員会
技術情報(3・7・11月号)	1,150,000	担当: 編集委員会
会員名簿	150,000	担当: 事務局
講習会・見学会補助費	100,000	
(小計)	1,950,000	
3. 委員会経費		担当: 各委員会
国際連絡委員会	1,500,000	本部理事会派遣費
編集委員会	300,000	技術情報発行費別
行事委員会	100,000	シンポジウム・論文集発行費別
学生・教育委員会	100,000	見学会・入門セミナー含む
表彰委員会	150,000	盾・賞状作製費含む
電子情報化委員会	200,000	
ジオメンブレン技術委員会	500,000	
ジオテキスタイル技術委員会	140,000	
コーポレートメンバー委員会	50,000	
技術委員会	300,000	調査費用 (技術委員会全体の予備費)
新技術委員会	100,000	
ジオシンセティック試験法委員会	200,000	
(小計)	3,640,000	
4. 事務局経費, その他		担当: 事務局
總會	50,000	ハイブリット開催準備費
地盤工学会(特別会員2級)	200,000	年会費, 会議室使用料, コピー代他
レンタルサーバー代	200,000	HP・メールングリスト用・Zoomライセンス
通信費	150,000	技術情報発送費, 郵便物発送費
消耗品費	100,000	事務消耗品
備人費	600,000	事務局備人費
幹事会	50,000	会議費
手数料	30,000	年会費郵便局払込手数料, 銀行各種手数料
その他	150,000	慶弔費等, 謝金, 事務局交通費他
(小計)	1,530,000	
支出合計	10,501,000	
5. 繰越金		
繰越金	20,742,324	次期繰越金
総合計	31,243,324	

監 査 報 告 書

国際ジオシンセティックス学会日本支部の2022年一般会計について
帳簿・証票・書類等を検証の結果、適正かつ正確であることをご報告申し上げます。

2023年2月2日

監事 明永 卓也

署名 明永 卓也 

監事 石川 雅洋

署名 石川 雅洋 

国際ジオシンセティックス学会日本支部 2023年 役員名簿

2023年2月2日

支部長	*桑野 二郎	(埼玉大学)
副支部長	宮田 喜壽	(防衛大学校)
幹事長	平井 貴雄	(三井化学産資株式会社)
副幹事長	久保 哲也	(前田工織株式会社)
会計・幹事	板垣 聡	(前田工織株式会社)
幹事	*井場 道夫	(三ツ星ベルト株式会社)
幹事	*内村 太郎	(埼玉大学)
幹事	勝見 武	(京都大学)
幹事	*鎌尾 彰司	(日本大学)
幹事	*嘉門 雅史	(一般社団法人環境地盤工学研究所)
幹事	*河村 隆	(信州大学)
幹事	菊池 喜昭	(東京理科大学)
幹事	*清川 伸夫	(東京インキ株式会社)
幹事	#久保 幹男	(エターナルプレザーブ株式会社)
幹事	*熊谷 浩二	(八戸工業大学)
幹事	*小島 謙一	(公益財団法人鉄道総合技術研究所)
幹事	*木幡 行宏	(室蘭工業大学)
幹事	篠田 昌弘	(防衛大学校)
幹事	島岡 隆行	(九州大学)
幹事	*龍岡 文夫	(東京大学・東京理科大学)
幹事	#中村 努	(苫小牧工業高等専門学校)
幹事	*榭尾 孝之	(大嘉産業株式会社)
幹事	*三木 博史	(株式会社三木地盤環境工学研究所)
幹事	峯岸 邦夫	(日本大学)
幹事	*毛利 栄征	(茨城大学)
幹事	*矢島 寿一	(明星大学)
監事	*明永 卓也	(三菱ケミカルインフラテック株式会社)
監事	*石川 雅洋	(東洋紡株式会社)
事務局	奈良真紀子	(IGS 日本支部事務局)

* 再任 # 新任